

第199回 「元気に百歳」クラブ「道草」(第8回通信句会)開催

オンライン会議を開き、次回の通信句会のスケジュールなどを、確認するルーティンが定着してきました。今回もオンライン会議の決まりに従い、8回目の通信句会を開催しました。気付いた問題点は、回を追うごとに改善されて、円滑な句会になっていきます。兼題の提示から、皆さんの選句結果のまとめまで、正確に把握できていると思います。今回は奥田さんが大活躍です。兼題の告示から選句結果のまとめまで、本当に有難うございました。

第8回の「通信句会」に参加されたのは次の方々です。

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、
金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、
手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、
森田多佳さん、芦尾白然(17名)。

今月の兼題は、兼題1「虹」、兼題2、「蓮の花」とだけ表示し、傍題は参加される皆さんが、自ら歳時記を捲って作句いたしました。これも毎月の会議の成果です。話し合うことで、オーソドックスな兼題の取り扱い方が身についてきました。ご覧の通りで、提示された「虹」と「蓮の花」だけで、バラエティに富んだ季語の使い方が出来ております。今回、皆さんが選ばれた天賞句と最多得票賞(☆印)句は下述の通りになりました。どうぞ高覧下さい。

兼題1. 「虹」

◎『片虹の消えて水辺に町残る』	晶如	天1
◎『虹の橋音符つけたき雨の後』	清助	天1
◎『虹消えてなほ残像の空の色』	多佳	天1
◎『虹を越え未知なる大地異国旅』	蒼樹	天1
◎『鮮やかに森を覆いて虹立ちぬ』	憧岳	☆8

兼題2. 「蓮の花」

◎『雨意の風古代の蓮の紅を濃く』	晶如	天2
◎『回り道甲斐あり蓮の花開く』	傘吉	☆6
◎『ぽんぽんと飛んで行きたや蓮の上』	一光	☆6

当季雑詠の自由題(=晩夏=)

◎『父子そろい鉄路見つめる夏帽子』	蒼樹	天3
◎『梅雨明けを待つサンダルの白さかな』	多佳	天2
◎『歩を止めて傘に雨音夏薊』	晶如	天1☆9
◎『淡々と生きたき余生夏に入る』	明峰	天1
◎『部屋干しのTシャツ揺らす扇風機』	和感	天1
◎『ペディキュアは赤畏みて茅の輪かな』	荻女	天1
◎『夏霧や球探すだけのゴルフ終え』	一光	天1
◎『新盆の友はコロナを憂いしも』	傘吉	天1

兼題1. では、晶如さんの句「片虹の消えて水辺に町残る」が、天賞一つを獲得しました。この句は虹が架かる水辺の町の景ですが、虹が消えて水辺の町がはっきり見えてくるという、アニメーション映画のような情景を、選者にイメージさせ共感を得ました。次に清助さんの句「虹の橋音符つけたき雨の後」が、天賞一つを獲得しました。この句は、架かっている虹をもって、選者に五線譜を想像させ、そこに音符が並んでいるような、しか

も雨の後で、楽しいメロディが聞こえて来る想像をさせてくれます。次に多佳さんの句「虹消えてなほ残像の空の色」も、天賞一つを獲得しました。虹は消えましたが、まだ残像が残るかのような空を句にしました。それを作者は下五で「空の色」と、読者に印象付けました。もう一句、蒼樹さんの句「虹を越え未知なる大地異国旅」も、天賞一つを獲得しました。海外旅行によく出かけられる蒼樹さん、ご覧になった異国の虹に、選者は一票を投じました。天賞は付きませんでした。最多得票賞（☆印）を獲得したのは、憧岳さんの句「鮮やかに森を覆いて虹立ちぬ」でした。選者は「トトロの森」での出来事でも、きっと思い起こされたのでしょうか。

兼題2. でも、晶如さんの句「雨意の風古代の蓮の紅を濃く」が、天賞二つを獲得しました。天賞推挙のコメントの中に「雨意の風と古代が響き合って、蓮の花をしっかりと引き立てている」とありますが、「季語をしっかりと引き立てる句」という評は、気持ちが良いですね。次に傘吉さんの句「回り道甲斐あり蓮の花開く」が、天賞は付きませんでした。最多得票賞（☆印）を獲得しました。その蓮は、曰く因縁のある蓮でしょうか。回り道をしてまで、見に行つた甲斐があったことが判ります。選者は作者の労をねぎらい「お疲れ様」と言っているのでしょうか。もう一句、一光さんの句「ぼんぼんと飛んで行きたや蓮の上」も、最多得票賞（☆印）に輝きました。この沈んだ世相を吹っ飛ばしてしまう活発な句が出来上りました。選者も句の持つその活発さに、一票を投じたのでしょうか。

当季雑詠の自由題では、蒼樹さんの句「父子そろい鉄路見つめる夏帽子」が、天賞三つを獲得しました。この句は天賞推挙のお三方のコメントにもありますように、鉄道マニアの「鉄男」親子の夏休み旅行にスポットを当て、父子の仲の良さに一票を。下五の「夏帽子」が見事でした。次に多佳さんの句「梅雨明けを待つサンダルの白さかな」が、天賞二つを獲得しました。この句は季語「サンダルの白さ」が主役です。もう一つの季語「梅雨明け」を上手に、主季語「サンダル」に従わせました。

次に晶如さんの句「歩を止めて傘に雨音夏薊」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句は、とてもリズム感の良い句で、雨中の夏薊の艶やかさに、ふっと足が止まり、目を凝らしていると、傘に当る雨音の快いリズムが身体に馴染んで来ます。下五の夏薊の結びが見事です。次に明峰さんの句「淡々と生きたき余生夏に入る」が、天賞一つと高得票を獲得しました。この句は作者の信条である「淡々と余生を生きる」という願望が、ひしひしと読者に伝わります。下五の「夏に入る」が時を示しています。

次に和感さんの句「部屋干しのTシャツ揺らす扇風機」が、天賞一つを獲得しました。この句は梅雨期の部屋干し風景を描きました。首を振る扇風機の動きが見えてきます。次に荻女さんの句「ペディキュアは赤畏みて茅の輪かな」も、天賞一つを獲得しました。天賞推挙のコメントにありますように「ペディキュアは赤」と、「畏みて茅の輪かな」が、「句またがり」になっている句です。作者は浴衣姿の素足で、茅の輪を潜る度に自分の赤い爪が見え、少し畏れ入るということでしょうか。

次に一光さんの句「夏霧や球探すだけのゴルフ終え」も、天賞一つを獲得しました。この句はまさに「夏霧で球の見えないゴルフになってしまった」という吐露に、選者の「お気の毒さま」の一票が投じられたのでしょうか。季語の「夏霧」が評価されました。もう一句、傘吉さんの句「新盆の友はコロナを憂いしも」も、天賞一つを獲得しました。コロナ禍の日々が続くようになり、二年近くになります。そのコロナ禍を憂いていた友は、今やこの世にはなく、新盆を迎えたという近況を、作者は句に詠まれましたが、その淋しい気持が、一層切なく読者には迫ってきます。

今回の通信句会のためのオンライン会議が、7月19日（月）の午前10時からに決まり、準備が進んでいます。いよいよ次回の通信句会は、私たちの第200回目の句会となります。今後のスケジュールはどのように進行していくか、会議の結果が待たれます。どうぞよろしくお願い申し上げます。（白然記）